

平成25年度木城町立木城小学校 自己評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標・・・家庭と地域と連携して、「学力向上」、「基本的な生活習慣の定着」、「体力向上」を目指す。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		○結果の考察・分析、◇改善策
				指標別	総合	
学力向上	① 学力向上を目指した授業の工夫・改善がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童のアンケート結果で「授業が分かる」の達成率が8割を上回る。</li> <li>○ CRTで全国数値を上回る学年を4学年以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な学習態度の育成図り、特に算数科の学習指導方法の工夫に努める。</li> <li>○ Web 単元システムを活用し、基礎、応用問題に取り組ませる。</li> <li>○ 教育予算を適正に執行し、有効に活用する。</li> </ul>	2.3	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 落ち着いた雰囲気での学習に臨む場面が見られ、教育機器を活用した授業に6割の教師が常時実践している。</li> <li>◇ 特に算数では、ノート指導を充実させ、更に理解を図る。</li> <li>○ 学力向上サポーターの活用、教育環境の整備充実等、人的・物的に教育予算の適正執行ができた。</li> <li>○ 到達度学力検査（CRT）結果については、国語・算数ともに全国平均を上回った学年は4学年、算数のみ上回った学年が1学年であった。指導方法工夫改善教員、町学力向上推進員による少人数指導、そして、学級担任の粘り強い指導、Web 単元システムの活用による多様な問題解決の成果と言える。</li> <li>◇ 到達度の下位D層の児童を減らすこと、上位の子への対応も必要であり、放課後を利用した補充的な学習サポートを組織的に取り組むとともに行政との連携を図る。</li> </ul>
	② 読書に親しむ環境づくりを進め、読書意欲を高める工夫がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書が好きと答える児童が8割を上回る。</li> <li>○ ファミリー読書の取組が75%以上となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎週2回の読書時間の設定、月1回、学期1回の外部からの読み聞かせ等による啓発を図る。</li> <li>○ 小中一貫連携事業を推進する。</li> </ul>	2.3		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 継続的な読書や定期的な読み聞かせにより、読書が好きと答えた児童が88%であった。図書の選定も職員、及びえほんの郷ブックアドバイザーの支援を受け、環境を整えている。</li> <li>○ 小中連携して、学期1回のファミリー読書推進ができた。今後は家庭での環境づくりに努める。</li> <li>◇ 町の図書室の利用促進を図る。</li> </ul>

心の教育の充実	① 気持ちの良い挨拶に心がけ、「挨拶、返事、整理整頓、廊下歩行、時刻」の当たり前5か条の指導がなされている。	○ 児童のアンケート結果で「良い」の評価が8割以上となる。	○ 教師はもちろん、保護者、地域との連携を図り、挨拶運動を推進する。  ○ 当たり前5か条について、全校朝会、学級での指導等で啓発する。	2.1	○ 学校では、挨拶ができて、地域ではまだまだ気持ちの良い挨拶の声が聞こえない。(保護者評価25%不十分) ○ 掃除、トイレのスリッパ、廊下歩行についても十分とは言えないが、指導体制は、整ってきた。 ◇ 児童会の取組を活用し、指導・評価・称賛を通して、粘り強く取り組む。 ◇ テレビ視聴やゲームの時間についてのルールづくりを検討していく必要がある。(保護者評価が低い)	
	② 好ましい人間関係を育てる指導がなされている。	○ 「学校が楽しい」と答える児童が8割以上となる。	○ 定期的に悩み調査を実施し、教育相談体制を整える。 ○ 学級集団づくり、縦割り班での活動を推進する。	2.8	○ 「仲良く遊んだり、勉強したりしている」と答えた児童が95%であった。いじめ、問題行動等に対しては、教育相談や指導体制が整い、8割の児童が「いじめ・意地悪がない」と回答している。 ◇ 定期的な調査を実施し、教育相談体制の充実を図る。	
体力向上	① 健康的な生活習慣の定着を図り、体力向上が図られている。	○ 早寝・早起き・朝ご飯の実施が9割以上となる。 ○ 体育の時間や業間の時間に9割以上の児童が楽しく参加している。	○ 第3週のさわやか調べ、食育推進等により、健康づくりの基礎を培う。 ○ プランに沿って、体育の時間の指導の工夫、季節的な持久走、縄跳びの積極的な取組を行う。	2.6	2.6	○ 児童・保護者とも早寝・早起き・朝ご飯の意識が高い。むし歯治療率は、2学期現在65%であるが、70%を目指す。 ○ 運動好きな児童が多く、95%が楽しく運動していると答えている。また、体育の時間に持久力を高めるために小中連携して取り組んだ。 ◇ 昼休み時間の戸外遊びを奨励していく。
開かれた学校	① 学校での授業や出来事が家庭や地域に情報提供がなされている。	○ 学校ホームページの更新、安全・安心メール、通信等で情報発信する。 ○ 教科、総合的な学習の時間等の地域人材の活用を図る。	○ 児童の活動の様子を記録し、人材育成が最大の課題であることを発信する。 ○ 教育委員会等の支援を受け、地域人材を授業の中で活用を図る。	3.1	3.1	○ 学級通信やホームページ等による情報発信を積極的に行うことができ、開かれた学校づくりに努めた。 ○ 可能な限り、授業の中に地域人材を活用し、魅力ある教育活動に努めた。 ○ 小中一貫連携教育の推進により、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めた。

平成25年度木城町立木城小学校 学校関係者評価書

4段階評定 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント ○結果の考察・分析 ◇改善策	自己評定	学校関係者評定	学校関係者評価コメント
学力向上	① 学力向上を目指した授業の工夫・改善がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 落ち着いた雰囲気での学習に臨む場面が見られ、教育機器を活用した授業に6割の教師が常時実践している。特に算数では、ノート指導を充実させ、更に理解を図る。</li> <li>○ 学力向上サポーターの活用、教育環境の整備充実等、人的・物的に教育予算の適正執行ができた。</li> <li>○ 到達度学力検査（CRT）結果については、国語・算数ともに全国平均を上回った学年は4学年、算数のみ上回った学年が1学年であった。 指導方法工夫改善教員、町学力向上推進員による少数指導、そして、学級担任の粘り強い指導、Web 単元システムの活用による多様な問題解決の成果と言える。</li> <li>◇ 到達度の下位D層の児童を減らすこと、上位の子への対応も必要であり、放課後を利用した補足的な学習サポートを組織的に取り組むとともに行政との連携を図る。</li> </ul>	2. 3	2. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者からの教職員への学力向上への取組には約8割の高い評価を頂いているので、今後も更に工夫改善して、課題解決に当たってほしい。</li> <li>○ よく放課後、町図書室で過ごす児童を見かける。どれぐらいの活用状況なのかを把握し、読書推進を含めて、学習の深化・継続化を図ってほしい。</li> </ul>
	② 読書に親しむ環境づくりを進め、読書意欲を高める工夫がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 継続的な読書や定期的な読み聞かせにより、読書が好きと答えた児童が88%であった。図書の選定も職員、及びえほんの郷ブックアドバイザーの支援を受け、環境を整えている。</li> <li>○ 小中連携して、学期1回のファミリー読書推進ができた。今後は家庭での環境づくりに努める。</li> <li>◇ 町の図書室の利用促進を図る。</li> </ul>			

心の教育の充実	① 気持ちの良い挨拶に心がけ、「挨拶、返事、整理整頓、廊下歩行、時刻」の当たり前5か条の指導がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校では、挨拶ができて、地域ではまだまだ気持ちの良い挨拶の声が聞こえない。(保護者評価25%)</li> <li>○ 掃除、トイレのスリッパ、廊下歩行についても十分とは言えないが、指導体制は、整ってきた。</li> <li>◇ 児童会の取組を活用し、指導・評価・称賛を通して、粘り強く取り組む。</li> <li>◇ テレビ視聴やゲームの時間についてのルール作りを検討していく必要がある。(保護者評価が低い)</li> </ul>	2. 4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶、返事、整理整頓、時間励行等については、今後も家庭と協力して、粘り強い指導をお願いしたい。</li> <li>○ 保護者から色々ないじめ・問題行動等の声を耳にする。学校、家庭ともに協力して、情報を共有しながら、組織的に対応してほしい。 そのためには、児童へのアンケートだけに頼らず、教師自身の声かけ、観察、保護者からの相談等、アンテナを高く張って、対応策を図ってほしい。</li> </ul>
	② 好ましい人間関係を育てる指導がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仲良く生活していると答えた児童が95%であった。いじめ、問題行動等に対しては、教育相談や指導体制が整い、8割の児童が「いじめ・意地悪がない」と回答している。今後も教育相談体制の充実を図る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な数値、状況が把握できないので評価しづらい。 また、小学校で経験した競技が中学校の部活動に存在しない等、運動の継続化という点で考慮が必要である。</li> </ul>
体力向上	① 健康的な生活習慣の定着を図り、体力向上が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童・保護者とも早寝・早起き・朝ご飯の意識が高い。むし歯治療率は、2学期現在65%であるが、70%を目指す。また、運動好きな児童が多く、95%が楽しく運動していると答えている。また、体育の時間に持久力を高めるために小中連携して取り組んだ。</li> <li>◇ 昼休み時間の戸外遊びを奨励していく。</li> </ul>	2. 6	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ お便りやホームページ等の情報提供は、大変有効である。 また、学校の窓口が事務室であるので、今後も温かい対応をお願いしたい。</li> </ul>
開かれた学校	① 学校での授業や出来事が家庭や地域に情報提供がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級通信やホームページ等による情報発信を積極的に行うことができ、開かれた学校づくりに努めた。</li> <li>○ 可能な限り、授業の中に地域人材を活用し、魅力ある教育活動に努めた。</li> <li>○ 小中一貫連携教育の推進により、知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めた。</li> </ul>	3. 1	3	